

鵜川・ピリカ・プロジェクト

～美しい川をめざして～

ピリカとは、アイヌ語で「美しい、良い」などを意味する言葉です。

第3回「鵜川・ピリカ・プロジェクト」が開催されました。

～美しい川をめざして～

平成19年7月14日(土) 9:00より、第3回「鵜川・ピリカ・プロジェクト～美しい川をめざして～」として、鵜川の河口から源流までの現地調査を行いました。16名の委員が出席しました。

現地調査の概要

1. 現地調査の行程

むかわ町「四季の館」より出発し、河口～穂別～占冠の各地点で降車、意見交換を行いつつ、上トマムの源流まで調査を行いました。帰路のバスの中では意見交換会が行われました。



現地調査行程経路図

<調査地点と説明内容の概要>

午前の行程

- ◆出発：四季の館
 - ◆鵜川河口左岸（降車）
 - ・鵜川河口自然再生事業
 - ・人工干潟
 - ・ムレトイの丘
 - ◆たんぼぼ公園（降車）
 - ・シシャモ産卵床
 - ・H15氾濫状況
 - ◆たんぼぼ公園～豊城築堤～川西頭首工～川東頭首工～有明地区
 - ・堤防強化
 - ・H18氾濫状況
 - ・利水の現状（川西頭首工）
 - ・利水の現状（川東頭首工）
 - ◆有明地区（降車）
 - ・樋門改築、河道掘削、流下能力不足
 - ・山地崩壊
 - ◆有明地区～仁和～穂別川沿公園
 - ・アオサギコロニー
 - ・植樹運動（マザーズ・フォレスト）
 - ◆穂別川沿公園（降車）
 - ・シシャモ産卵床
 - ・H15氾濫状況
- <食 事>

午後の行程

- ◆穂別川沿公園～穂別ダム～福山大橋～赤岩青巖峡
 - ・林業について
 - ・ダムの概要
 - ・福山溪谷の景観、観光
- ◆赤岩青巖峡（降車）
 - ・赤岩青巖峡、二二ウの景観、観光
- ◆赤岩青巖峡～堰堤～トマム～源流
 - ・占冠村の景観、観光
- ◆源流（降車）
 - ・源流の経緯
- ◆到着：四季の館



鵜川河口左岸（ムレトイの丘）



鵜川源流

意見交換の詳細

1. 現地調査についての感想

源流での現地調査が終わった後に、四季の館へ向かう間に、今回の現地調査全体についての意見交換を行われました。

- * 集中豪雨の雨量が更新されているということで、治水、防災が大事と思われた。
 - ・今日は穂別ダムを見るためここまで来たが、農業ダムであり直轄ではないことも驚いたことのひとつ。
 - ・鶴川の河口干潟については、干潟の図鑑という今年発行の本に2ページにわたって載っている。
- * 上下流の人間が一堂に会し議論をすることで大変参考になった。
 - ・穂別で管理者が道と国に分かれているが、特に川の監視カメラなどは河川全体で連携をとって欲しい。
- * 鶴川について知らない所が多かった。赤岩青巖峡など身近な人間にも広げていきたい。
 - ・今後安全な川、きれいな川になってほしいということなど、今後の会議で見出せていければ良いと思う。
 - ・自分の出来ることは小さなことと思うが、少しでも携わっていきたい。
- * 鶴川の河口の干潟、海を見るのは初めてで、河口の状況を見て驚いた。
 - ・林業に携わっているために気は遣っているが、川上を汚すことでの川下への影響を考えながら努めていきたい。
- * 普段見ない川、昔自分が住んでいたところのような、懐かしい川を見た。
 - ・環境破壊を食い止める部分も必要と感じているが、災害のない河川ということも考えていかなければならないかと感じている。
- * 源流を初めて見て、その下流での水は直接飲めないという事実を改めて実感した。
 - ・環境についても、山の木を植える、下水道を整備する、農薬を使用しないなどいろいろな努力の組み合わせが必要であり、さらに人工的なものなどの組み合わせで災害を防げるのかと思う。
- * 源流を見るのを楽しみにしていた。湧いている水というものに不思議な感じを受けた。
 - ・川があることで水害などの人間にとって困ることも多いが、その恵みも大きなものであり、それらの折り合いをいかにつけるかを考えるしかないと感じている。
 - ・今日の現地調査のように、子供たちの考え方、感じ方の元になるように様々なことを経験させてやりたい。
 - ・上下流がうまく交流して勉強して行ければ良いと思う。
 - ・小さい川も危ないがそれに気をつけて何かをすることがいい経験になると思う。そのように理解されるように、ゆっくりと努力していきたい。
- * 委員間の温度差を縮めていけたのがうれしい。
 - ・源流を見て小ささがっかりした人もいるかもしれないが、小さなことからやっていくのが大事だと思う。
 - ・今後もシシャモが豊かな環境となるよう、川、森、海を一体に大切にしていこう活動が必要と思う。
- * むかわ町にいて鶴川のことを知らなかったので、源流まで行け、あのような小さなものが大きな流れになることに感動した。
- * 道路や河川の監視カメラなどの防災対策がよくわかった。
 - ・源流の小ささには驚いたが、何でも最初は小さなものだと感じた。
 - ・今度はもう少し柔らかくカヌーによる川下りなどもよいのではないか。
- * 現地視察の感動を歌にした。

「緑なす 森と田園の中 流れ行く 鶴川よいつも 清流であれ」
 「チドリ、シギ 羽を休めに 集い来る 鶴川の水辺 母なるごとく」
 「アオサギの コロニー幾つ あるという カラマツ林 伐採するなかれ」
 「航空写真の 鶴川の流れ 美しき とわの流れを 守りゆきたし」
 「赤や青 巨岩おりなす 青巖峡に すがしき風の 通り過ぎ行く」
 「初めて見し 鶴川の源流 水清く エゾサンショウウオ すみかとせるか」
- * 職業柄、過去の洪水による堤防被害などを思い浮かべつつ川を見ていた。
 - ・源流でのサンショウウオを見て、自然でのきれいな水にはやはりこのような生き物が住むということに感動した。
 - ・川を美しくするというテーマでの鶴川・ピリカ・プロジェクトとして、大変意義があったと感じた。
- * 土木の立場での会議をこれまで行ってきたが、答えが2、3年後に出るような会議が多く開発と保全でぶつかる形が多かったが、この会はいい雰囲気だと感じた。
 - ・苫小牧市内の学校で、学校そばの河川を整備した際に水辺に近づけるようにしたが、PTAから防護柵の要望などが多かった。
 - ・我々もそのような部分で、地域と学校と行政で話し合いをし、理解を求めていきたい。
- * 今日のテーマは森林と川であったわけだが、環境、観光、教育など今後の会議への様々な切り口ができたと感じた。
 - ・いろいろな分野で皆さんの意見を頂き、地域づくり、川づくりに取り入れていきたい。
 - ・カヌーでの川から川岸を見るなど今年度内にはできればとも思う。
- * 今年を入れて9年間かわ塾をやってきた。その反応を見ていて川での遊びの楽しさは大人子供共通と感じている。
 - ・ただ、毎年開催を通じて水量が少なくなってきたことが気になる。従来北海道は水不足とはあまり縁がなかったが、今後は植樹などで保水力をつけることが大事なのかと思っている。
 - ・今後の川の活用は、眺望や釣りなどから福祉や教育など社会的に活用していこうという動きが出てきている。さらなる勉強をしていきたい。
- * ピリカ・プロジェクトで流域住民の声を反映していきたい。
 - ・地球規模の環境を考えるとすることは、我々の活動の一つ一つに直結しているという自覚をしていいと思っている。
 - ・官主導でない、民の圧力でない、官民一体となった河川行政につなげたい。



バス内での意見交換